スラグ無断埋設

「我々の土地 実験台か」

千葉 地盤不安定化の恐れ

千葉県袖ケ浦市の大規模な区画整理事業を巡り、地権者の承認を得ずに鉄精製時の副産物である「製鋼スラグ」が大量に埋設されていたことが明らかになった。スラグには水と反応して膨張する性質があり、地盤の不安定化が懸念される上、専門家は植物などに影響を及ぼす強アルカリ水が溶出する可能性も指摘。地権者からは「我々の土地を実験台にしているのか」と批判する声が上がった。【杉本修作】

施工した共同企業体（ＪＶ）のトップで中堅ゼネコンの奥村組（大阪市）が地権者らに説明した内容によると、ＪＶはスラグの排出元となった新日鉄住金（東京都千代田区）と2011年5月に、スラグの利用について協議していたという。

奥村組が正式に施工業者に決まったのは同年7月。その2カ月も前から協議が進められていたことになる。

奥村組の担当者は翌12年1月、区画整理事業組合の理事に「地盤の強度が出なかった（低かった）。地盤改良のためスラグを使う」と報告したが、費用や工事の詳細は報告しなかった上、この時点で既にスラグは納入されていたという。

15年2月、組合の意思決定機関である「総代会」から、同会の承認を得ないまま工事を進めた理由を問われた奥村組の担当者は「いろいろと不都合があった。地権者に不安を与えるといけないと思った」と回答。被害が出た場合の保証期間を尋ねられると「完了後2年」と答えたという。

事業を監督する千葉県の指示を受けたＪＶは15年9月、外部の検査機関に委託し、施工が正しく行われたかを調べるボーリング調査を実施。これによると、スラグを混ぜて地盤改良したとされる層の厚さは数㌢から2㍍超まで大きな幅があり、一切使用されていない場所もあった。施工に不安を感じた地権者の有志が地盤を掘削したところ、土と混ぜられることなく固まっている数十㌢のスラグの塊も次々と見つかった。

男性地権者は「こんな欠陥だらけの土地を子や孫に引き継げない」。別の男性地権者は「我々の土地が実験台かゴミ捨て場にされたのではないか」と憤った。県は先月18日、土地区画整理法に基づき改善を勧告した。

スラグには雨水などと反応して膨張する性質があり、道路で利用されるスラグには日本工業規格（ＪＩＳ）で膨張率に基準（1・5％以下）が設けられているが、宅地利用での基準はない。別メーカーからスラグをもらい盛り土に使った群馬県榛東村の民家では床が隆起する問題も起きた。

また、袖ケ浦市の現場のスラグを地権者の許可を得て毎日新聞が環境省指定の第三者機関で鑑定したところ、水素イオン濃度（ＰＨ）が12前後の強アルカリ水が検出された。

アルカリ水溶出も

スラグの被害に詳しい畑明郎・元大阪市立大大学院教授（環境政策論）の話　使用した時点で国にリサイクル品として認定されていないのなら産業廃棄物を市街地に使ったと言われても仕方がない。製鋼スラグは膨張する特性があり、長い年月で化学変化し地盤が安定しなくなることは十分考えられる。また、強アルカリ水は植物や人の皮膚に影響があり、地下水の位置などの条件によってはアルカリ水が地上に溶出することもあり得る。

ＪＲ内房線の線路左側に広がる千葉県袖ケ浦市の区画整理事業地。右奥には袖ケ浦駅が見える＝21日、阿部義正撮影

製鋼スラグ

鉄を作る際に出る鉄くずの「鉄鋼スラグ」のうち、特殊鋼などを精製する際に排出されるもの。石や砂の形状をしており、強度があるために道路の路盤材などに使われる。

ＪＲ稲枝駅の石炭殻撤去へ

市、関連議案を発表

彦根市は22日、29日開会の市議会3月定例会に提案する2016年度当初予算案など35議案を発表した。ＪＲ稲枝駅の橋上化と自由通路の整備に伴い、一帯で蒸気機関車の石炭の燃え殻が見つかったことを受け、その撤去などにかかる費用として1億1100万円を増額するため、ＪＲ西日本との協定を変更する議案を提出する。

同工事をめぐっては昨年6月、地盤の軟弱さなどが判明。市は供用開始時期を当初の予定より半年遅れの今年9月に修正した。新たに石炭殻撤去の必要が生じたことで開始はさらに2カ月遅れ、今年11月末になるとしている。

石炭殻は昨年8月に見つかり、推計で4580トン。市は同12月、撤去費を見込んで工事費の債務負担行為期間を17年度まで1年延長し、約2億3千万円増額した。並行してＪＲ西と協議を続け、完成後に市が用地を購入する際の費用のうち7千万円余りを差し引くことでこのほど合意。これに伴い、当初の工事の協定内容も変更する。

このほか条例関係では、特別職の給与を本年度に引き続き市長7％、副市長5％、教育長3％各減とする案や、4月から市立病院事業管理者に現院長を選任するのに伴い給与などを定める案など。

会期は3月24日まで。一般質問は7～9日。

（広瀬哲裕）